

1. 件名：原子力エネルギー協議会との面談
2. 日時：令和5年8月10日（木）10：00～10：50
3. 場所：原子力規制庁8階会議室
4. 出席者：
 - 原子力規制庁
 - 技術基盤グループ
 - 技術基盤課 佐々木企画調整官、酒井原子力規制専門職、山田原子力規制専門職
 - シビアアクシデント研究部門 関根副主任技術研究調査官

 - 原子力エネルギー協議会 理事 他3名
 - 東京電力ホールディングス株式会社 原子力運営管理部 課長 他2名
 - 日立 GE ニュークリア・エナジー株式会社 1名
 - 東芝エネルギーシステムズ株式会社 2名
 - 株式会社グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン 1名

（一部テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨：
 - <デジタル安全保護系の共通要因故障対策>
 - 第8回発電用原子炉施設におけるデジタル安全保護系の共通要因故障対策等に関する検討チーム会合において、検討チームメンバーから ATENA に対して以下の質問をしていた。
 - ✓ ABWR の有効性評価において、低温 RIA（反応度事故）時のボイドフィードバックを考慮しているが、その妥当性を ATENA としてどのように確認したのか
 - ATENA より、上記質問について、資料1を用いて説明があった。
 - 原子力規制庁より、説明の内容がより明確になるよう資料を修正するよう依頼した。
 - ATENA より、対応する旨の発言があった。

6. 配布資料：
 - 資料1 TRAC系コードでの解析の必要性について